

インターバンクの声（2016 年 6 月 30 日）

英国の欧州連合(EU)離脱決定という衝撃的な結果から、早くも一週間が経とうとしているが、金融市場は覚悟していたほどの大混乱になっていないこともあってか、英国のEU離脱をめぐる懸念は大きく後退しているようだ。特に欧米の株式市場が2日続けて大幅上昇しており、一概に安値による買い物色だけで上げているわけでもないように見えた。米国の原油在庫が予想以上に減少したことも背景だろうが、原油価格がニューヨーク市場終盤に上昇したことや5月の米個人消費支出が2ヵ月連続して伸びたことなども市場に安心感を与えたようだ。ただ、外国為替市場では、ドル/円やユーロ/ドルが買い戻しの動きが出ていると言っても、英国の国民投票結果によって暴落した後、反発があった水準に届くか届かない程度の戻しに留まっている。下値を追いかけて売ってしまった人達のストップによる買戻しも入っているのだろう。ドル/円が103円台でも円安に向かうような動きを見せれば別だが、まだまだポジション自体も相場観も100円割れを見ている参加者が大勢のようだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。